

薬を噛み砕いてはいませんか？

1: はじめに

「この薬、錠剤が大きくて飲みづらいから噛み砕きたいなあ。」こう考えたこと、ありませんか？しかし、薬の中には砕いてしまうと効果が低下してしまうものや、副作用が強くなってしまふものがあります。今回はいくつかの薬を例に挙げながら、なぜ噛み砕いてはいけないのかを紹介していきたいと思います。

2: 薬が患部に届くまで

薬は、どのようにして体で効果を発揮するのでしょうか。薬を飲んだ後の体内の流れについて紹介します。まず、薬は口から入ると食道を通り、胃で分解されます。胃で分解された薬の大部分は小腸で吸収されて血液中に取り込まれます。その後、門脈という静脈を通して肝臓に入り、分解されたり毒性が弱められたりします。薬が肝臓を通過した後は、血液によって全身をめぐる過程で患部に到達し、ここで薬の効果が発揮されます。

3: 噛んではいけない理由

(1) 苦くなるため/臭いが悪くなるため

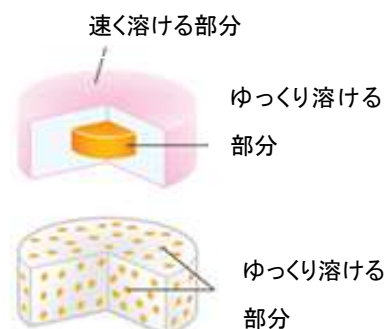
薬の有効成分には強い苦みがあるものや、不快な臭いを持つものがあります。このような薬には、砂糖やフィルムでまわりをコーティングすることで苦みや臭いを軽減して飲むことができるように工夫されています。これらの薬を噛んでしまうと抑えていた苦みや臭いが口の中で広がってしまいます。

(2) 胃で溶けてほしくないため

薬の有効成分には胃酸で効果がなくなってしまうものや、胃を荒らすものがあります。このような薬には胃酸で溶けないようコーティングがされており、このコーティングによって胃では溶けず腸で溶けるようになっています。このような薬を腸溶錠と言います。この腸溶錠を噛んでしまうとコーティングが崩れてしまうため、胃酸で効果が低下したり、胃を荒らすなどの副作用が出る場合があります。

(3) 薬の効果が短くなってしまうため

薬の効く時間が短く、一日に数回飲まなければならない薬があります。そのような薬には右のイラストのように薬の構造に工夫をすることで、効果が長く続くようにしたものがあります。これを徐放性製剤と言います。この徐放性製剤を噛んでしまうとゆっくり溶けだす構造を壊してしまうため、薬の効果が短くなってしまふことや、薬が速く効きすぎて中毒症状を起こしてしまうこともあります。このようなことを防ぐために、人の力では噛み砕けないように硬く設計された薬もあります。



4: 嚙んではいけない薬の一例

苦味を抑えているもの	アリナミン [®] F 糖衣錠、エペリゾン塩酸塩錠
臭いを抑えているもの	リマチル [®] 錠
腸溶錠	胃酸で効果がなくなるもの 胃を荒らすもの
	ラベプラゾール Na 塩錠、ランソプラゾール OD 錠 バイアスピリン [®] 錠
徐放性製剤	ニフェジピン CR 錠、ニフェジピン L 錠、デパケン [®] R 錠
徐放性製剤で、硬く設計されたもの	オキシコンチン [®] TR錠

5: 飲みづらい時は？

ここまで薬を嚙んで飲んではいけない理由について説明してきましたが、それでも薬が飲みづらくて困っているという方はたくさんいらっしゃると思います。そのような時はどうしたらよいのでしょうか。

- 口の中を湿らす : 口を湿らせて薬の滑りをよくしましょう。
- お薬ゼリー/服薬ゼリーを使用する : 子供に使うイメージがあるかもしれませんが、大人向けのゼリーもあり、ドラッグストアやスーパーマーケットなどで販売されています。薬をゼリーで包み込むことで、喉の滑りが良くなります。使い方をよく確認して使用しましょう。



- お菓子のゼリーに挟む : ゼリーに挟むと飲みやすくなりますが、薬によっては挟んではいけないものがあるため医師・薬剤師に相談しましょう。
- オブラートに包む : 喉の滑りが良くなります。必ず水と一緒に飲むようにしましょう。また、水に浸してから使用する時はさっとくぐらせる程度にしましょう。
- 下を向く : 錠剤を飲み込むとき、上を向いて飲む人がいます。上を向くと気道が開き気管に入りやすくなるため、少し下を向き顎をひいて飲むようにしましょう。
- 医師に剤形を変えてもらう : 粉薬や口腔内崩壊錠に変更してもらいましょう。口腔内崩壊錠とは唾液で溶ける薬のことで、口の中で溶かしてから飲むことができます。ただし、薬によっては変更できないものもあります。

6: さいごに

今回紹介したものだけでなく、医薬品の多くは患者さんのために何らかの工夫がされています。そのため、使用方法を誤ると効果や副作用などが変わってきてしまいます。もし、薬で飲みづらい・服用することが苦痛だと感じるのであれば、**自分で判断するのではなく必ず医師や薬剤師に相談しましょう。**

参考資料 : 徐放性製剤の粉碎投与 | ナース専科 (<https://knowledge.nurse-senka.jp/233484/>)

三重県工業研究所, 研究報告 (<https://www.pref.mie.lg.jp/common/content/000417080.pdf>)

中外製薬: 薬が患部に届くまで (<https://www.chugai-pharm.co.jp/ptn/medicine/body/body002.html>)

公益財団法人日本医療機能評価機構 (https://www.med-safe.jp/pdf/report_2018_1_T002.pdf)

ゴホン! とはいば龍角散 (<https://www.ryukakusan.co.jp/>)

錠剤・カプセル剤粉碎ハンドブック

文責 : 堀部緑、中村達彦(実習生)